

**令和7年度
城南区人権啓発連絡会議
委員研修会**

**子どもを取り巻く問題
～現状と支援～**

2025年6月24日

長阿彌 幹生(チョウアミミキオ)

- 教育文化研究所 代表
- 不登校サポートネット 代表
- 不登校よりそいネット 実行委員長
- 福岡県ひきこもり地域支援対策
連携調整会議委員
- 福岡デンマーク協会 顧問
- セルプセンター福岡 副会長
- 医療法人・NPO法人等 顧問歴任



子どもを取り巻く諸問題

- ①不登校の激増
- ②格差の拡大（貧困化）
- ③子どもの権利蹂躪
（虐待、差別等）

①不登校について

【基本的視点】

不登校が子どもを **ダメ**
にするのではなく、
不登校を **ダメ** と思っ
ている大人が 子どもの未
来を **ダメ** にする

●不登校児童生徒の 政府(文科省)による定義

何らかの心理的、情緒的、身体的
あるいは社会的要因・背景により、
登校しないあるいはしたくてもできな
い状況にあるために年間30日以上
欠席した者のうち、**病気や経済的な
理由による者を除いた者**

●「不登校」についての 私たち支援者による定義

何らかの理由により、学校との
距離を置こうとしている行為であ
り、自分が壊れることから身を守
る切実な行為。

2023年度の不登校児童生徒数は
27人に1人(3.7%)の小
中学生が不登校になって
いる！

※2023年10月31日文科省発表速報ベース

不登校児童生徒数（2023年度）

- 小学生 81,498人(2021)⇒105,112人(2022)
⇒130,370人前年比：24%増
- 中学生163,442人(2021)⇒193,936人(2022)
⇒216,112人前年比：11%増
- 高校生 50,985人(2021)⇒60,075人(2022)
⇒68,770人前年比：18%増(一昨年同率)

合計295,925人⇒359,623人⇒415,252人
前年比：15.5% 急増！

※子ども全体の数は少子化で減り続けている！

※2023年10月31日文科省発表速報ベース

さらに“行き渋り”の子どもたち

●小学生 ●中学生 ●高校生

不登校児童生徒数合計 41万人

⇒この約3倍(123万人)の

**“行き渋り”状態の子どもたちがいる
と推定されている。**

**※行き渋り＝不登校ではないが遅刻・早退が日常化している・教室に入れず保健室・図書室・ステッ
ブルーム等に登校している状態が続いている**

不登校の児童生徒と行き渋りの児童生徒を加えると

164万人の子どもが学校に行きづらくなっている。⇒

9人に1人(11%)の小中学生が学校に行きづらくなっている！

●国家存亡の危機と言える状態

②格差の拡大 （貧困の深刻化）

格差の拡大＝中間所得層の衰弱化・貧困の連鎖)

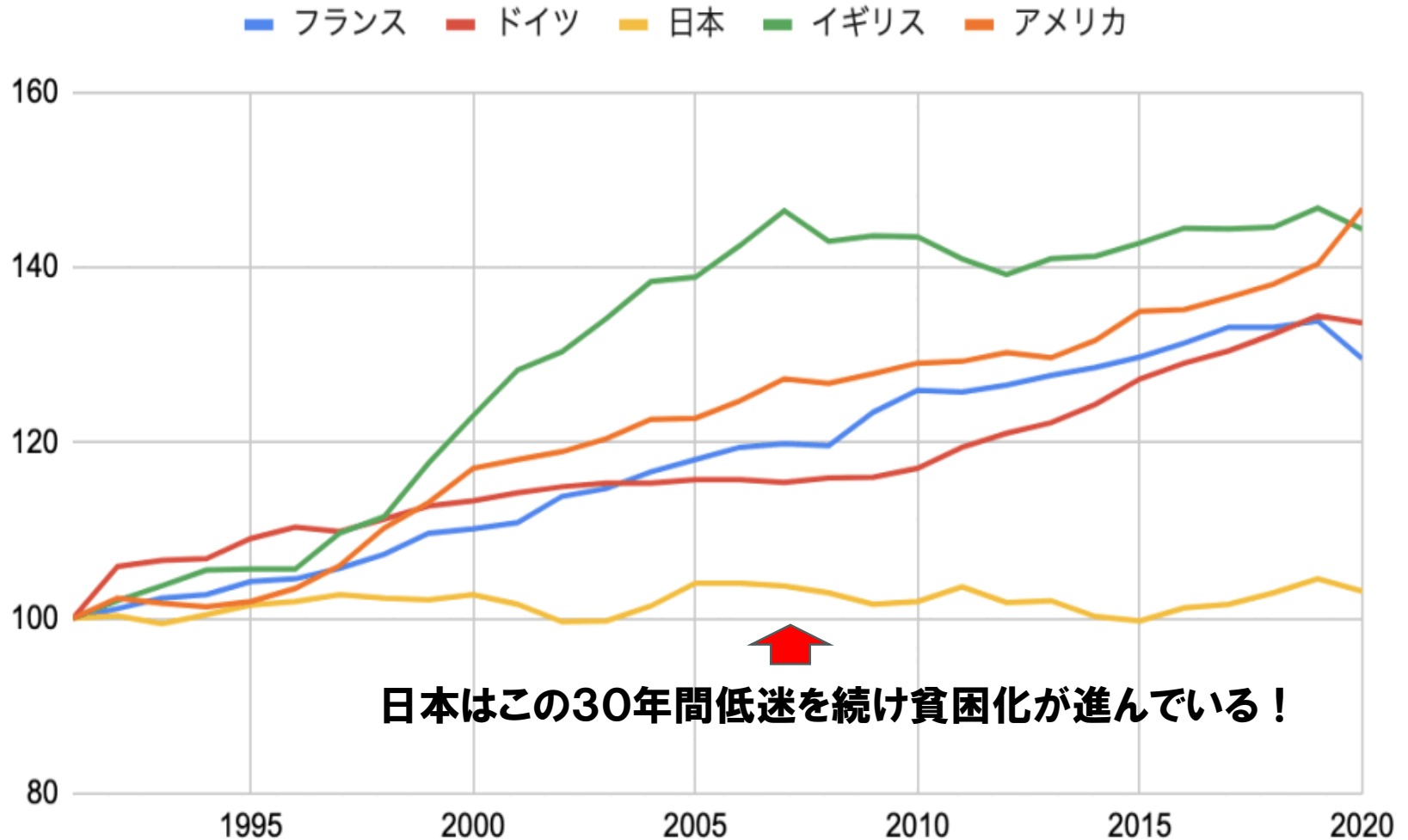
●非正規雇用者数の急増

- ・2126万人(2024年度)
- ・労働人口の37%(3人に1人)

●正規労働者の低賃金

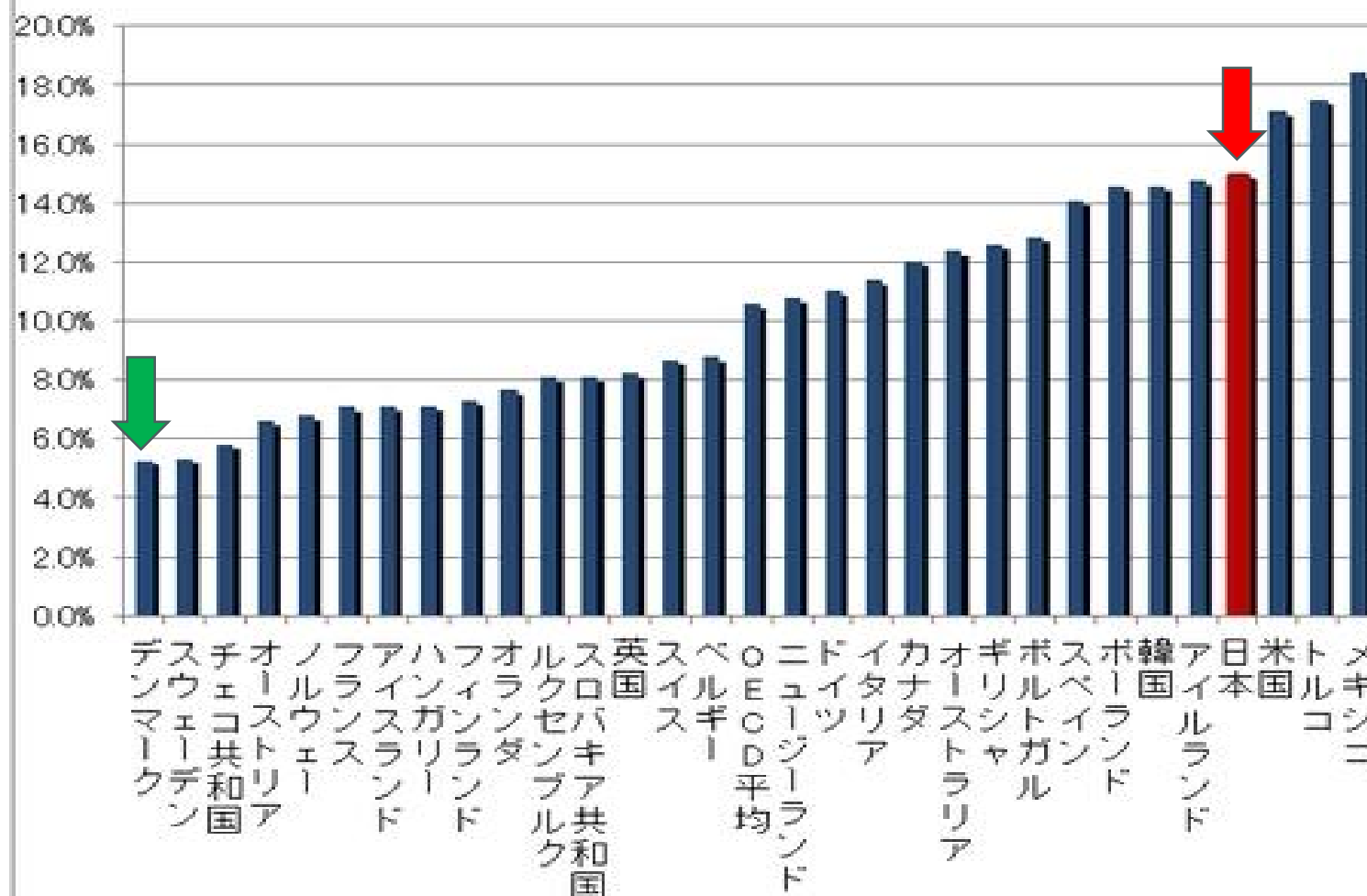
- ・正社員・正職員の 平均時給 2,021円
- ・正社員・正職員以外の 平均賃金1,337円

一人当たり実質賃金の推移



実質賃金：名目賃金(手取り)を消費者物価指数で割った賃金。実際上の購買力に換算したときの賃金

相対的貧困率 国際比較(2020年)



OECD Factbook 2010より作成

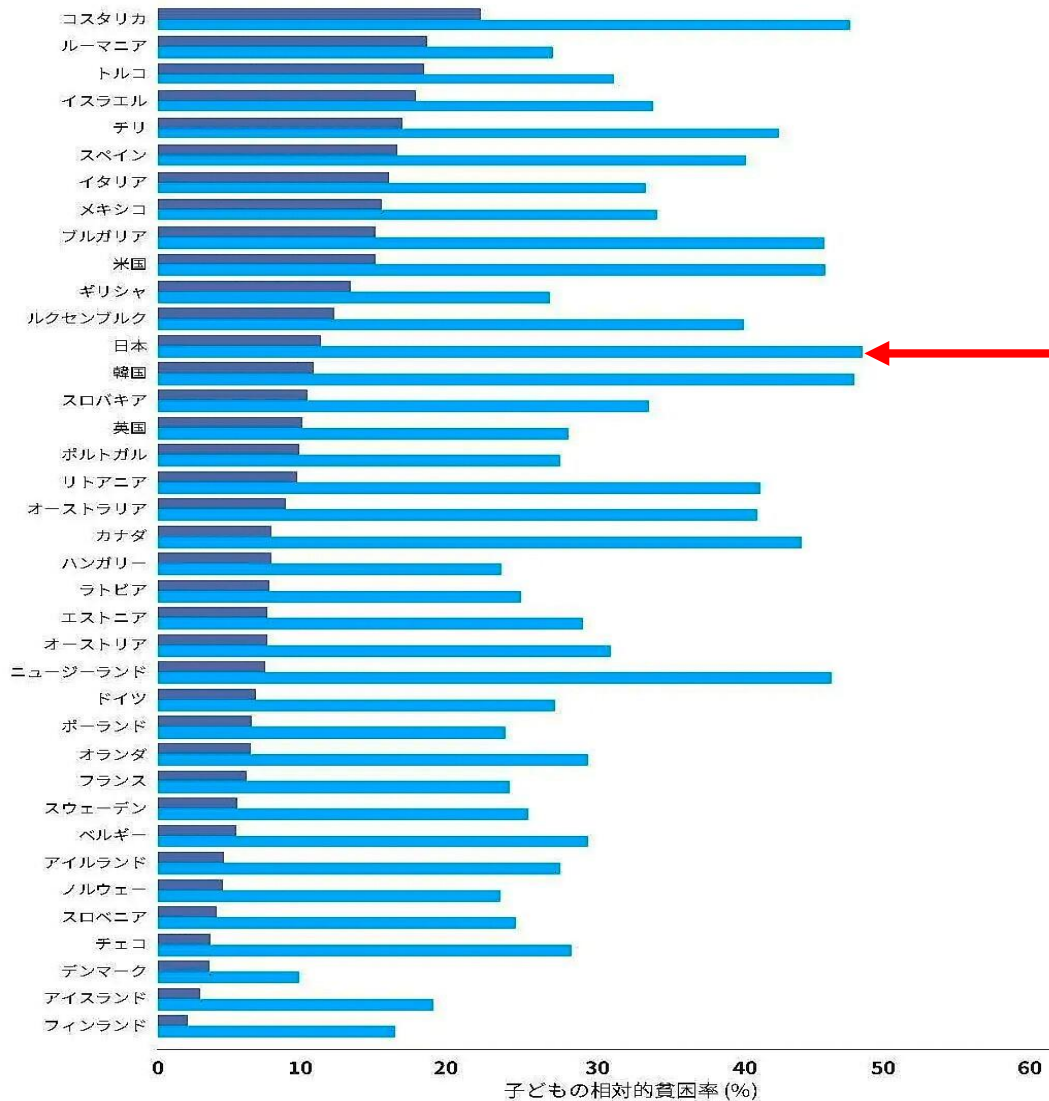
(http://www.oecd-ilibrary.org/economics/oecd-factbook-2010_factbook-2010-en)

▼相対的貧困率 国や地域の中での経済格差を測る代表的な指標のひとつ。**所得が集団の中央値の半分にあたる貧困線に届かない人の割合を指す**。税金や社会保険料を除いた手取りの収入を世帯の人数で調整した「等価可処分所得」が比較の物差しになる。

※厚生労働省の国民生活基礎調査によると、**貧困線は2021年では年間所得が127万円**だった。

OECD加盟国の子どもの相対的貧困率(ひとり親世界・二人親世帯)

ふたり親の世帯、2018年もしくは最新のデータ)



Sources:

See Technical Appendix

Note:

The relative income poverty rate in this chart is based on a threshold of 50 per cent of median income

日本(38ヶ国中26位)

● おとなが1人の世帯
● おとなが2人以上の世帯

●ヤングケアラーの増加

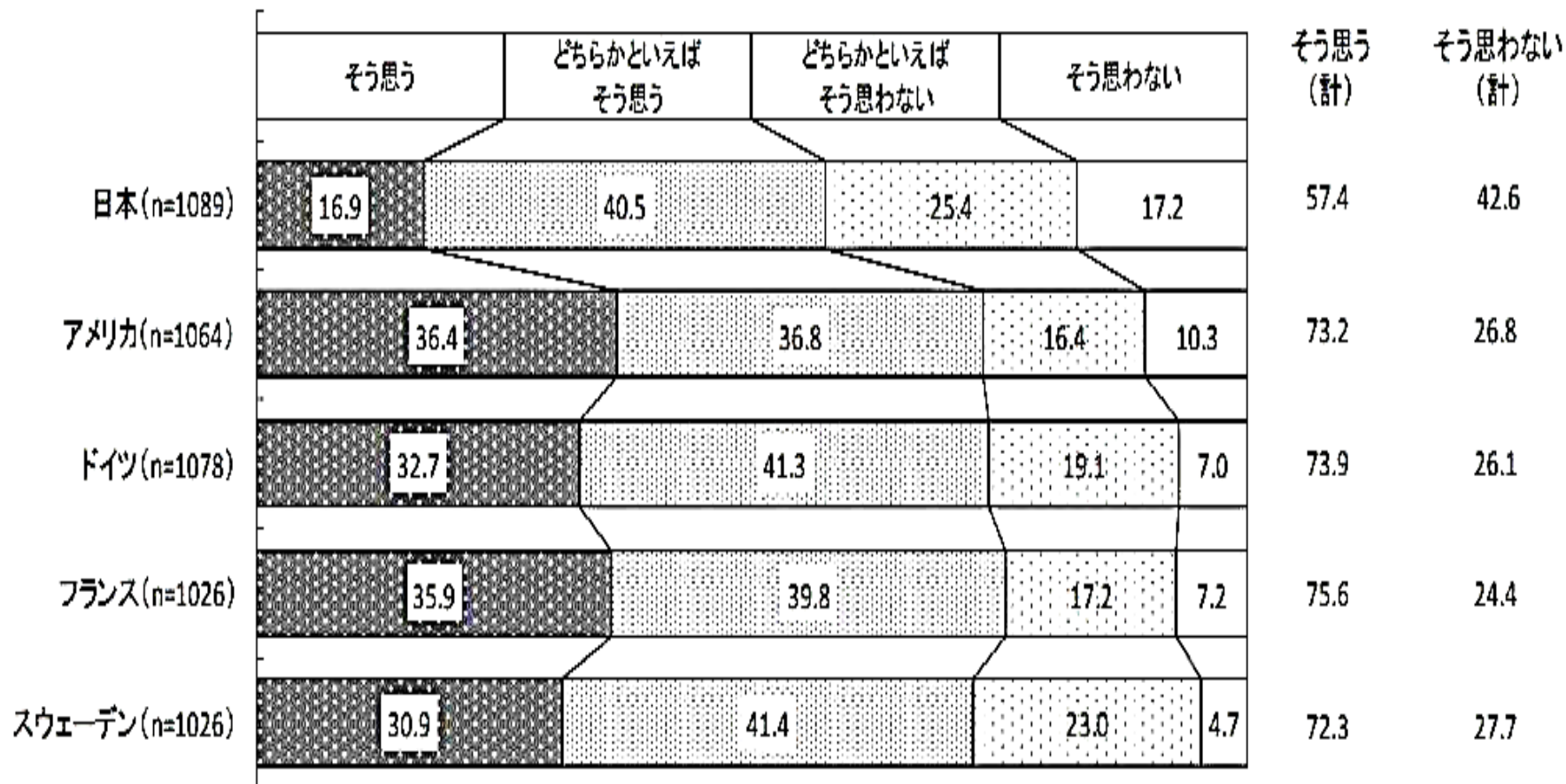
中学生の17人に一人(5.7%)

高校生の24人に一人(4.1%)

2020年12月から2021年1月にかけて、公立の中学校1000校と全日制の高校350校を抽出して2年生にインターネットで「世話をしている家族がいるか」というアンケートを実施し、およそ1万3000人から回答を得ました。

【質問】自分自身に満足しているか？（5カ国比較）

—こども家庭庁「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査（2023年度）」
(%)



さらに小中学生の自殺者数が高止まり

図表 2-2 小中高生の自殺者数の推移



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

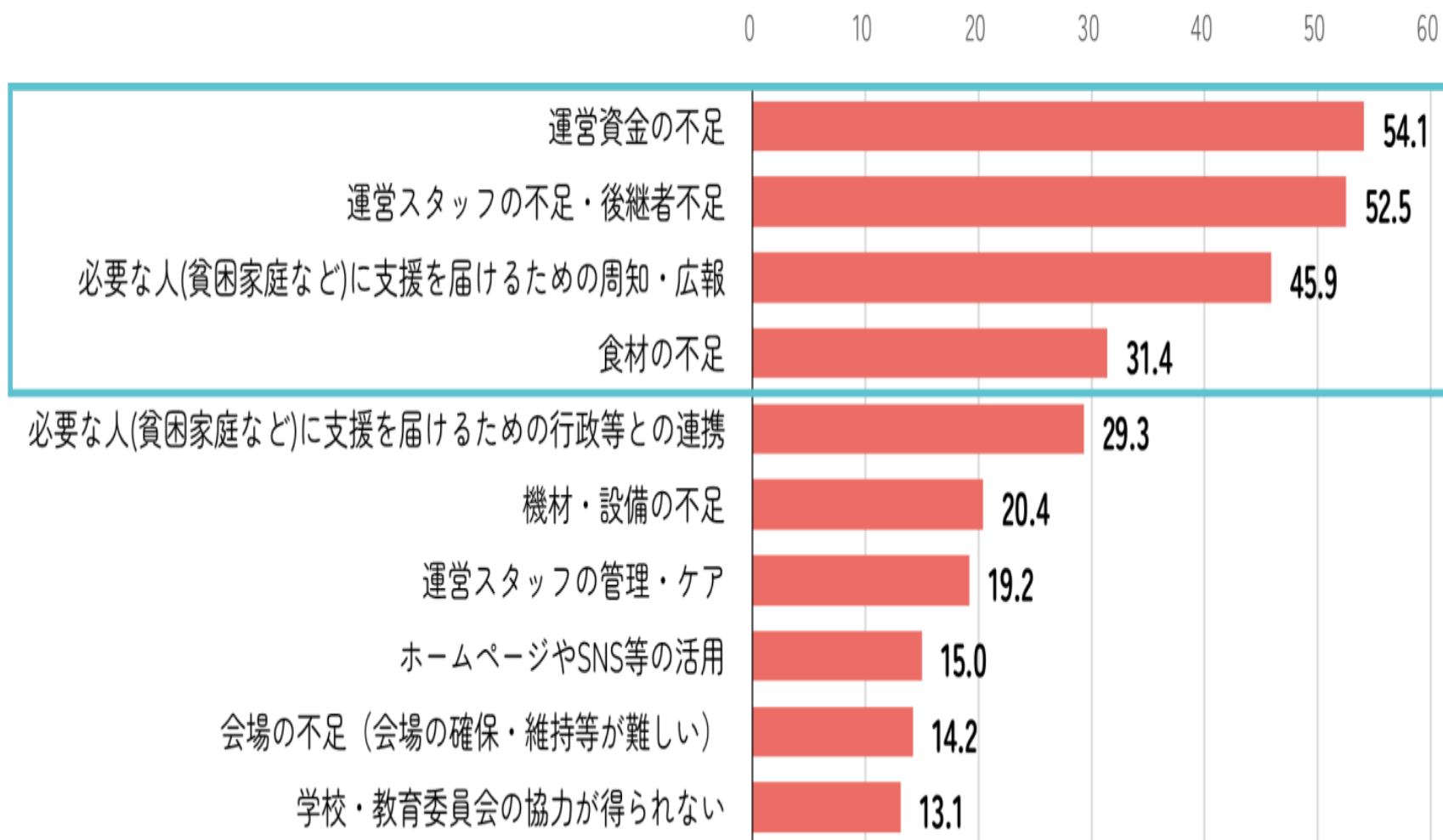
こども食堂の現状

※第9回「こども食堂の現状&困りごとアンケート2024」(回答期間:2024年7月~8月)

- 「みんなで会場に集まって食べる」という会食形式のこども食堂が83.5%まで増えていた
- 一方で、「物価上昇による影響を感じている」という回答が88.5%と9割近くを占めている
- 困りごとこと①「運営資金の不足」②「食材の不足」「スタッフ不足」
- 「寄付もらうとうれしいもの」では「米」が80.1%で最も多い

こども食堂での困りごと(複数回答)

回答数：1,302件 単位：%



③子どもの権利の蹂躪 虐待・差別等

虐待の実態

児童虐待事件

■2024年は過去最多の
2649件

■被害児童の死亡者**52人**
(警察庁2025. 6. 17発表)

児相通告は2年連続で**12万人超**

■警察が2024年に虐待の疑いがある
と児童相談所に通告した子どもの数：
12万2378人。2年連続で12万人を超え
、**高止まり**の状態にある。

■厚生労働省によると、2023年度に全
国の児童相談所が児童虐待について
受けた相談は**22万5509件**。前年度比
5.0% (1万666件)増えて過去**最多**とな
った。

■相談内容:「心理的虐待」が**59.8%**(13万4948件)、「身体的虐待」**22.9%**(5万1623件)、「保護の怠慢・拒否(ネグレクト)」**16.2%**(3万6465件)、「性的虐待」**1.1%**(2473件)の順。

■待加害者(虐待をした者)は、実母**48.3%**、実父**42.3%**、「実父以外の父親」**5.1%**など。

子どもの権利条約

※国連にて1989年に採択された国際条約

※日本1994年批准

※別紙参照

■生きる権利

■守られる権利

■育つ権利(※学習権)

■参加する権利(※意見表明権)

どうしてこうなったのか？

大人社会に**利己的**な考え方(自分さえ良ければ)が蔓延

- 競争主義：勝ち組志向
- 拝金主義：金さえあれば
- 刹那主義：今さえ良ければ

その結果、

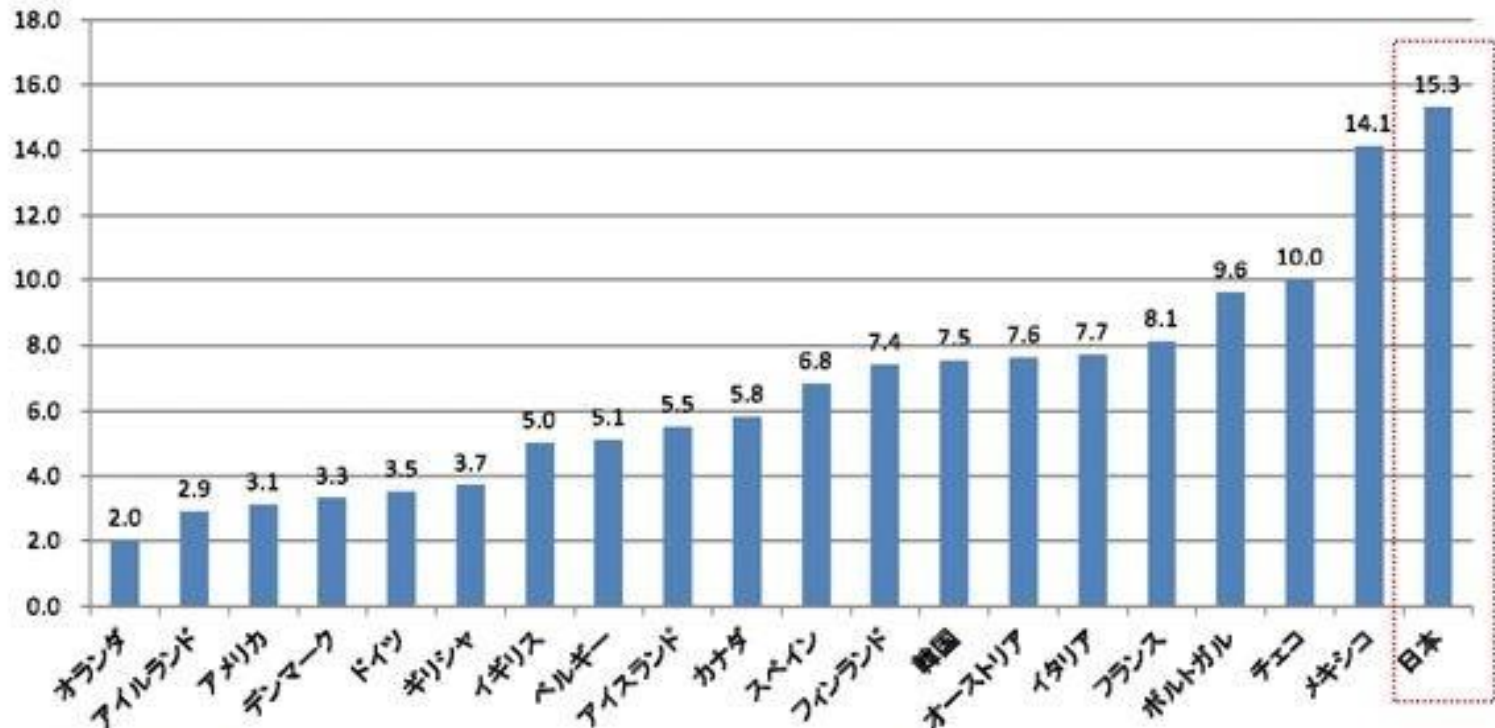
**日本国民の相互不信が深まり、
他者を信頼出来なくなり、孤立
度が主要国との比較でも非常
に高くなっている。**

⇒孤立化が進む

国際孤独度調査(OECD)

「家族以外の人」と交流のない人の割合（国際比較）

○ 日本では「友人、同僚、その他の人」との交流が「全くない」あるいは「ほとんどない」と回答した人の割合が15.3%あり、OECDの加盟国20か国中最も高い割合となっている。



(注) 友人、職場の同僚、その他社会団体の人々(協会、スポーツクラブ、カルチャークラブなど)との交流が、「全くない」あるいは「ほとんどない」と回答した人の割合(合計)

(出典) OECD, Society at Glance: 2005 edition, 2005, p8

この現状を
どうしたら
改善できるか

どうしたら子どもが**自信を
取り戻し、未来への希望を
もてるのか？**

★新しい生き方が求められている⇒
子どもは大人の生き方を黙って注視
している＝**態度で、行動で示すこと**

**私たち自身の考え方
・生き方を変える**

大人自身の生き方・考え方を方向転換 ⇒**共生社会**への方向転換

①大人自身の希望や夢を持つ

②「助け合い・支え合い・分かち合い」
の生き方を実践する

③「みんな違ってみんないい」(学歴・職業・
肩書・年齢・性別等で人を判断しない)」

★共生とは

あなたの目の前にいる人を、
この時代を共に生きている

“**仲間**”として意識し、共
に助け合って生きること

話題の書 マイケル・サンデル著 実力も運のうち～能力主義は正義か？



自分の実力で今の自分があると思い込んでいる人たちへ、その実力はあなたが生まれた家庭、育った家庭、暮らした国、など諸々の偶然(運)によってもたらされたものに他ならない。そう思うなら、運に恵まれなかった人々への思い遣りこそ、共生社会に必要なものなのではないだろうか

④ 私たち大人自身が学び続ける

**※ 自分は「普通」「世の中のことは大体知っている」という思い込みに気付くこと
⇒ 私たちの知っていることはたかが知れている**

⑤ 自分の考え方の偏りや癖を自覚すること

★ 自分の固定観念・偏見などに気付く

⑥ 腹をくくること

- この地域の子どもたちと一生
付き合う覚悟
- この地域の子どもの応援団を
自任する

支援のスタンス (支援態度)

支援に当たっての基本姿勢

目の前の相手を『**今の時代を共に生きている仲間**』と思えるかどうかを自分に問うてから向き合うことが必要
＝当事者としての自分の自覚

★**どんな自分を用意して
その場に臨むか？**

支援スタンス

■ **“とことん”**付き合う

⇒自分一人で対応するのではなく、
他の人と協力して支援する

※ **抱え込まないこと**

★「もうこの人の支援は出来ない・
したくない」と思う被支援者に出会
った時は、自分にはその**実力が無い**
ことを自覚する。⇒矢印は自分

支援スタンス

■問題解決は本人や家族が行うもので代わって支援者が行うものではない

⇒**そっと優しく**当事者が一歩を踏み出せるように後押しする

★**ゆっくり・やさしく・何度でも**

支援を通して、被支援者
はもとより、支援者自身
も成長し、**双方が幸せに
なっていく支援**が本当の支
援の在り方です

**私たちの目指すのは
当事者の方々の**

笑顔です！

お知らせ

新しい本が出版されました！



サポーター養成講座のエッセンスを詰めて1冊の本にまとめました。全国一斉販売されています。この講座の参考図書として購読頂くと幸いです。

●出版社：びーんずネット
1980円(税込)

不登校・ひきこもりインタビュー事例集



●びーんずネット 出版

1320円(税込)を**特別価格**1100円(税込)

私も含めて不登校やひきこもりなどで悩んだ子ども、保護者の貴重なインタビュー集です。

長阿彌幹生のなかよし読本

長阿彌幹生のデンマーク読本



●教育文化研究所 刊 各500円

●長阿彌幹生のなかよし読本(教育文化研究所刊) 500円

西日本新聞から執筆依頼を受けて1年間にわたり毎週掲載されたエッセイ「ちょっと心呼吸」の中から選んだエッセイ集。人生を楽しくいきるヒントが満載です。

●長阿彌幹生のデンマーク読本(教育文化研究所刊) 500円

幸福度世界一の国デンマークに毎年訪れてその幸福度の中身を探っています。示唆に富んだデンマークの人たちの生き方を、写真も交えて紹介しています。

子ども未来読本

●不登校サポートネット発刊

500円

不登校当事者の体験談(若者、保護者)や中学卒業後の進学や就職についての資料など不登校支援に20年間関わってきたNPO団体「不登校サポートネット」がこれまでの活動の中から当事者の方が必要としている情報や知識をまとめたもの。

是非、当事者や支援者の方々に読んで頂きたい本です。



**ご清聴ありがとうございました。
ございました。**